

代表者名	若杉 清一	所管部課名	建設交通部建設交通政策課
所在地	北秋田市阿仁銀山字下新町119-4	設立年月日	昭和 5 9 年 1 0 月 3 1 日

**【沿革及び県の出資理由】**

国鉄改革に伴い鷹角線は廃止対象路線に選定されたが、沿線住民の重要な交通手段であることから、県と関係町村が主体となり存続することで合意され、それぞれの出資により昭和 5 9 年 1 0 月 3 1 日会社を設立した。

**【出資者】(22年度当初)**

(千円、%)

区分	団体数	出資額	構成比
秋田県	1	115,800	38.6
市村	3	115,800	38.6
その他	18	68,400	22.8
計	22	300,000	100.0

**【事業】**

**主たる業務**

秋田内陸縦貫鉄道の経営

**事業実績**

(人)

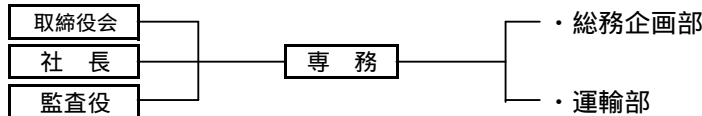
事業名等	19年度	20年度	21年度
輸送人員	443,170	470,541	482,068

**21年度事業概要及び22年度事業計画・目標**

平成21年度は、内陸線の持続的運行を確保していくため、県・北秋田市・仙北市及び会社の四者により会社の収支改善、鉄道施設等の大規模改修について、役割分担を明確にした四者合意が2月に締結されました。今年度の輸送人員は、JRと連携した「東北ローカル線バス」の効果や秋田県の外国人誘客事業により韓国、台湾からの旅行者が5,500人程の利用などで48.2万人と前期より増加しております。  
平成22年度は、4者合意の締結による新しい経営改善計画が本格始動する年であります。輸送人員60万人、経常損失2億円以内を目標として、秋田内陸地域公共交通活性化・再生総合事業を活用した列車増発やマイレールキャンペーンによる20万人乗車運動による利活用の促進、秋田内陸活性化本部、仙北市TIC及び商工会等との連携による行政並びに地域と一体となった経営の推進に取り組みます。

**【組織】**

**運営機構**



**役員数 (H22.7.1現在) (人)**

	取 締 役	監 査 役
常勤	1	
内、県退職者		
内、県職員		
非常勤	4	2
内、県退職者		
内、県職員	2	
計	5	2
内、県関係者	2	

**職員数(H22.4.1現在)(人)**

正職員	49	正職員	正職員
内、県退職者		平均年齢	平均勤続年数
出向職員	4	41歳	16年
内、県職員			
臨時・嘱託	8	正職員平均年収	
内、県退職者		3,856千円	
計	61		
内、県関係者			

役員報酬支給対象者数	1人
役員報酬支給対象者平均年齢	59歳
平均役員報酬額	1,980千円/年

**【財務】**

**損益状況(21年度) (千円)**

	金 額
経常収入 A	222,922
受託事業収入	5,149
補助金収入	
自主事業収入	215,467
運用益収入	
その他	2,306
経常支出 B	473,824
人件費	258,699
その他	215,125
経常損益 C = A - B	250,902
経常外収入	275,553
経常外支出・諸税	33,583
当期損益	8,932

**財務状況(21年度末) (千円、%)**

	金 額	構 成 比
流動資産	59,126	24.9
固定資産	178,597	75.1
資産計	237,723	100.0
流動負債	144,353	60.7
短期借入金	55,000	23.1
固定負債		
長期借入金		
負債計	144,353	60.7
資本金	300,000	126.2
剰余金	206,630	86.9
純資産計	93,370	39.3
負債・純資産計	237,723	100.0

県の損失補償額	県の債務保証額

退職給与引当状況	要支給額	引当額	引当率
	中小企業退職共済制度を採用		100.0%

**【県の財政支出】**

(千円)

	19年度	20年度	21年度	支出目的・対象事業概要等
補助金	176,640	177,774	159,112	運営費補助金、近代化鉄道設備整備補助金、第三セクター鉄道設備整備費補助金
委託費				
貸付残高				

## 1 主な経営指標

項目		単位	19年度	20年度	21年度	19-20増減	20-21増減
健全性	自己資本比率	%	26.74	44.22	39.28	17.48	4.94
	借入金依存率	%	25.96	17.29	23.14	8.67	5.85
	流動比率	%	52.74	42.50	40.96	10.24	1.54
収益性	剰余金(欠損金)	千円	222,755	197,698	206,630	25,057	8,932
	経常利益率	%	129.63	103.88	112.55	25.75	8.67
	総資本利益率	%	91.00	104.89	105.54	13.89	0.65
発展性	経常収入額	千円	202,825	233,616	222,922	30,791	10,694
効率性	総資本回転率		0.70	1.01	0.94	0.31	0.07
	職員1人当たり経常収入	千円	3,380	4,028	3,843	648	185
	人件費比率	%	129.14	111.36	116.05	17.78	4.69

## 2 経営目標の達成状況

経営目標			19年度	20年度	21年度	22年度
経営改善指標	経常損失額(千円)	目標	209,712	194,238	200,000	200,000
		実績	262,927	242,671	250,902	
事業成果指標	人件費比率(支出割合)(%)	目標	54.0	54.0	54.0	54.0
		実績	56.3	54.7	54.6	
事業成果指標	輸送人員(人)	目標	701,131	733,776	600,000	600,000
		実績	443,170	470,541	482,068	
事業成果指標	売上高(千円)	目標	306,969	326,443	340,000	268,000
		実績	202,562	228,253	215,467	
顧客満足度指数		目標	60	60	60	60
		実績	65	63	67	

## 3 経営状況及び課題、経営目標の達成状況についての自己評価

輸送人員において、JRと連携した「東北ローカル線パス」の加算(22,998人)により対前年約12千人の増となっておりますが、この加算値を除くと対前年を11千人程下回っており、通勤定期利用の減少と存続運動の沈静化による地元及び周辺地域からの利用の減少が顕著に表れてきました。この結果、収入につきましても鉄道収入約13,000千円減となり、関連事業及び営業外収入を合わせましても約11,000千円減となっております。一方、支出につきましても、人件費の賞与の削減や動力費の燃料単価の低下などにより約2,000千円の削減はしましたが、収入の減収が大きく経常損失250,902千円となり経営改善目標をクリアすることはできませんでした。

## &lt;顧客満足度調査の結果を受けて実施する取組&gt;

今後とも目標指数をクリアすべく、「安全とおもてなしの心」をもって目標達成に取り組みます。  
また、お客様の声を真摯に受止め、業務の改善を図ってまいります。

## 4 総合評価(計算書類等の資料による評価)

概ね安定した経営内容	一層の努力を要する経営内容
<p>・JRと展開した「東北ローカル線パス」は輸送人員の増加には寄与したが、収入増加には結びつかず、その他の利用者減少と通勤定期も冬季間のマイカー利用の増加などにより経常収入は10百万円減少となった。これにより、経常支出が微減となり、経常損失は8百万円悪化し、目標の200百万円を下回る結果となった。</p> <p>・次年度も輸送人員600千人、経常損失200百万円以内を目標に掲げているが、増収となる企画商品の開発だけではなく、更なるコスト削減への努力が求められる。</p>	